

地域の会 質問・意見書

日付： 2024年1月14日

氏名 竹内英子

東京電力・新潟県・柏崎市・刈羽村・原子力規制庁に対する 質問・意見

1. 柏崎刈羽原子力発電所敷地内の能登半島地震による液状化の実態調査について

東京電力は中越沖地震後、原子力規制委員会へ「敷地内の亀裂・噴砂の位置」(2017.2.14 4条-別紙 224・225)を報告しています。

- ① 現時点で原子力発電所の敷地内に、能登半島地震による亀裂や噴砂は確認されていますか。(東京電力)
- ② 今後、敷地内に新たにできた亀裂や噴砂の詳細を調査する予定はありますか、もし既に調査が終わっているようであれば結果を教えてください。(東京電力)
- ③ 新潟県・柏崎市・刈羽村が、能登半島地震後「東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所周辺地域の安全確保に関する協定書」に基づく立入調査等(10条)・状況確認(11条)をいつどのように実施し、どんな結果だったのかを教えてください。(新潟県・柏崎市・刈羽村)

2. 新潟県上・中越沖での地震発生リスク評価と隆起による取水への影響について

能登半島地震は、能登から佐渡にかけての150kmにもわたるいくつもの断層が連動して起こりました。報道などによれば、現在、この震源域の両端が震源になる危険性が高まっているとも指摘されています。

- ① 上・中越沖の6本の海域断層が連動して地震が起きる想定はしていますか。(東京電力)
- ② 前回定例会で東京電力は、「能登半島地震の震源域については、既に評価している上・中越沖の6本の海域断層より柏崎刈羽原発への影響が小さい」と説明しました。しかし、能登半島地震の震源域と上・中越沖の断層が全て連動した場合「想定外」の地震となるのではないかと心配です。新規制基準では、各活断層の評価だけでなく、連動した場合の評価、さらに、地震による地殻変動で隆起・沈降などが起きた場合の評価もされているのでしょうか。(原子力規制庁)
- ③ 前回定例会で東京電力は、「柏崎刈羽原発の海側の断層は、陸沿いではなく沖にある断層のため、能登半島ほどの隆起・沈降は起きない」と説明しました。取水口には津波の引き波の対策のために深さ3.5mの海水貯留堰があるようですが、万が一何らかの理由で取水できなくなった場合、この貯留堰に残った海水で何分ぐらい冷やし続けられるのか教えてください。(東京電力)
- ④ 津波で細かな浮遊物や海底の泥を巻き込んだ海水になった場合、冷却設備に影響があるのか否か、影響がある場合にはその内容も教えてください。(東京電力)